

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット共通/A,B,C)

事業所番号	2792700169		
法人名	医療法人港南会		
事業所名	グループホームノーサイド		
所在地	大阪府大阪市大正区千島3丁目8-8		
自己評価作成日	令和4年4月10日	評価結果市町村受理日	令和4年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年5月20日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の病院が区内にあるので、健康状態把握と管理に力を入れており、24時間のオンコール体制を敷いている。  
 そのため、緊急時にも迅速に対応が出来ることから重度の方にも安心して生活いただけています。  
 他にも、病院休診日の日曜祝日を除きリハビリ通院してもらっており、PTの指導等もあり、身体機能等の維持向上に努めると共に、現在コロナで中止はしておりますが、地域住民の方とも積極的に交流を持てるようご協力いただき、外的刺激を受けてもらうようにし、生活にメリハリを持たせ緩慢にならないように考えています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人港南会は大阪市内に5か所のグループホーム、介護付き有料老人ホーム、ケアプランセンター、デイサービス等多数の介護関連施設を運営している。当事業所は3ユニットで開設予定であったが、現在は2ユニットで稼働している。料金設定を抑えていることや母体が医療法人で24時間いつでも対応が可能ということから利用者や家族からは喜ばれている。また医療法人の強みを活かした取り組みとして、週1回クリニックから送迎してもらい利用者に歩行訓練や身体機能の維持向上のためのリハビリを行っている。コロナ禍で散歩や外出などできないが、月2回体調管理のために受診したり、週1回リハビリの通院時に馴染みの人と話す機会を持つことができる。長期に努めている職員が多く、利用者も職員も和気あいあいとして働きやすいと職員からの感想を聞くことができた。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針に「地域福祉の拠点を目指し、地域の方々との交流を大切にし、誠実に職務に努める。」と掲げており、それを踏まえて、職員は「地域に溶け込んだ暮らしづくり」を理念・目標として職務に努めている。	法人で運営する6か所のグループホームで「地域に溶け込んだ暮らしづくり」を開設以来理念とし玄関に掲示しているが、コロナ禍で地域との交流が難しくなっている。また感染予防を重視し、個室から出る機会を減らしている。	事業所では新型コロナ感染防止のため外出の機会が無く地域との交流ができていないことは理解できるが、理念の意味を読み取り、利用者が自室にこもるだけでなく、ユニット間の行き来や、玄関先へ出てみる等、職員間で話し合いを持ち、利用者本位の創意工夫を望む。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの感染対策により直接の交流が出来ていない分、運営推進会議の報告などでやり取りを行い、いつでも交流を再開できるように努めている。	老人会に加入し回覧板で地域の情報を得ている。新型コロナウイルスの感染拡大以前は併設のデイサービスに歌や太鼓、マジックのボランティアの訪問があり、一緒に参加したり、夏祭りには神輿見物、また近く買い物に行ったりしていた。職員はコロナが収束し町内会の行事に参加したり、散歩や地域との交流ができることを望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人病院への通院患者様や、デイサービスの利用者、その家族、又、近隣住民の方を中心に認知症への理解をしてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会連合会会長、入居者様のご家族に会議に参加していただく等会議参加者の増加に努めている。	現在運営推進会議は対面での開催ができず書面での開催になっている。会議の構成メンバーに事前に資料を作成してもらい、その後意見や要望を聞き双方向の関係ができるよう取り組んでいる。会議の参加者は地域包括支援センターと数名の家族、管理者、計画作成担当で議事録は参加者に送付し、玄関にファイルして閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	民生委員と連絡をとり、助言をいただいている。また、区役所職員と話す機会も多く、助言をいただいている。	利用者の約半数が生活保護受給者で担当者との連絡や、介護保険の更新申請、新型コロナウイルスに関連する備品の申請など区役所と連携する機会が多い。運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し、2名の利用者は成年後見制度を利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則的に禁止とし、マニュアルやミーティングの機会ですべての職員に周知徹底している。	身体拘束排除マニュアルと身体拘束廃止に関する指針を整備している。医師、看護師、理学療法士、ケアマネージャー、そして職員が参加して3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会が開催され身体拘束をしない取り組みについて議論されている。年2回の身体拘束に関する研修も実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルやミーティング、内部研修等の場で学ぶ機会を持ち、定期的な通院による利用者の心身状態のチェックを行ってもらっており、職員間でも情報共有に努め、相互に見過ごしがないように注意を喚起し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員共々、活用機会があれば利用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明の時間を十分にとっており、疑問点は都度説明し、納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に意見を聞く機会を設け、書面としても苦情受付を行い、苦情処理簿を作成している。施設外への申し立ても出来るよう、相談窓口の案内も行っている。	家族から意見や要望等が得られやすいよう、家族に電話で利用者の様子を伝え、家族の不安に応えられるようにして信頼関係の構築に努めている。コロナ禍ではあるが面会がしたいという家族の要望に応えるため予約制で短時間の面会ができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員への聞き取りを行っており、ミーティングなどの機会にそれらの意見をまとめ、反映できるよう努めている。	月1回事業所全体での会議を行っている。会議では利用者の食事形態や排泄などケアについて、トイレの掃除のことや運営に関する話し合いを行っている。主治医が法人代表で会議の時以外にも職員は管理者や代表者に職員の意見や提案を伝えることができる。直ぐに対応できることは反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的なミーティングやカンファレンスを行い検討する機会を設けている。又、職員と話し合える機会を設け、環境整備等の行えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後、OJT・研修等を設け段階的にトレーニングを行っており、法人内研修は随時行っている。法人外のものには参加者以外にも情報共有できるように周知研修等の報告の機会を設け、報告後も閲覧できるよう保存している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ対策の為外部へ赴く事は出来ないがDVD研修やグループホームネットワークでの勉強会を通じ、他の同業者との交流を図っている。そこから情報交換等を行う事でサービスの質と利用者満足度の向上を目指している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前相談の段階で本人から十分な聞き取りを行える場を設け、相談環境への配慮や十分な時間の確保をすることで納得して利用していただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	家族の要望に関しては入居前の段階から十分に聞き取りを行えるよう場所、時間の確保をすることで納得して利用していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から聞き取りを行ったうえで、本人や家族と検討する場を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の機能維持のため、出来ることは自分又は職員と共同で行ってもらい、身体不自由などで介助が必要であっても利用者は職員よりも多くの経験を積まれており職員側が教えていただく事は多々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の不安や疑問は気軽に口に出せる雰囲気を作り、面会はもちろん電話でも本人の状況などをまめにやり取りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などの訪問に関して積極的に行ってもらえるよう努めている。散歩の機会などを利用してなじみの場所に定期的に訪れてもらえるよう努めており、遠方の際にはご本人の状態から判断し行う。	コロナ禍で今までのように自由に面会したり、ユニット間で行き来したり、散歩で図書館に行くということにはできないが、家族に電話を掛ける支援は行っている。居室の窓は全て道路側に面して利用者と家族が窓越しに話すことができるので、家族が犬の散歩に行く時に様子を見ることできる。現在は利用者同士の新たな関係性ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立することのないよう職員が橋渡しとなるなどして、気持ちよく共同生活が営めるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族が希望されれば利用終了後も相談を受けるなど、関係性が継続するよう図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の意向を踏まえた介護計画を作成し、その実現に向けて模索している。聞き取り困難な利用者に関しては、家族又は関係者への聞き取りを行ったうえで検討している。	利用者一人ひとりの思いや意向は利用者との他愛のない雑談の中から把握したり、自分で直接管理者に「こんなおやつが食べたい」「寿司や刺身が食べたい」と紙に書いて伝える利用者がある。メガネを新しく作りたいという利用者の意向を家族に伝え、新しく眼鏡を作り意向が実現ができて喜ばれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護計画作成時に本人及び担当CWから十分な聞き取りを行ったうえでフェイスシート作成を行っており、それを元に利用者の意向を把握できるよう職員間で検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護日誌により、各人の一日の過ごし方や心身の状態を把握できるようにしている。本人の有する力に関しては、日常の中で職員が気付いたことを検討議題として掲げるなど正確に把握できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族からの要望等聞き取りを行ったうえで職員間でミーティングにて意見交換している。その後、モニタリング、ケース会議を経て介護計画を作成している。	長期目標期間を1年、短期目標期間を3ヶ月で設定し介護計画を作成している。3ヶ月に1回評価をして介護計画通りに支援が行われているかどうかのチェックを行う。介護計画を作成する時は本人の意向が反映されるように本人を交えて職員、計画作成担当者、管理者で話し合を行う。必要があれば期間の途中でも随時計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護日誌をつけており、それを元に引継ぎ等を行う事で情報の共有及び実践を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリ通院の移送支援など、その時々要望に応じて柔軟な対応がとれるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ対策の為直接の交流が出来ていないが運営推進会議報告などで交流し接点が途切れないように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人の同意の下、連携医療機関をかかりつけ医としているが、希望があればなじみのかかりつけ医による継続的な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医は家族や利用者話し合い決めており全員が協力医としている。月に2回内科の定期診療に病院の送迎で出かけており、歯科も希望者は診察に出かけている。その他の受診には基本家族の付き添いとしている。リハビリにも不定期に送迎を受けている。主治医と24時間医療連携があり週1回看護師の訪問を受け健康管理が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の通院等により、利用者、職員、看護職員がなじみの関係にあるため、利用者の健康状態に疑問のある時は即時連絡し、指示・助言をいただいている。また、異常の有無に関わらず利用者の状態報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	基本的に、入院先が日々通院している連携病院の為、入院時も利用者には安心して入院してもらっている。早期退院に向けて情報交換や相談も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」として説明している。事業所で出来ないことに関しても連携病院より毎日訪問介護してもらおうことで対応している。また、24時間病院とオンコール体制にあるため迅速な対応が可能である。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」で出来る事出来ない事を説明をして同意書を交わしている。利用者が重度化した場合は医師より家族に説明して書類を作成し関係者と方針を話し合い支援に取り組む予定でいる。職員は看取りマニュアルや外部の研修で学んでおり、開設以来看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを用意しており、定期的なミーティング等の機会を利用し職員への緊急時の対応を認知してもらえるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練などの災害を想定した訓練を定期的に行い避難経路や防災用品等の使用方法を再確認するよう努めている。訓練後は報告の場を設けることで参加できなかった職員への指導・伝達に努めている。	年2回(8月・1月)通報訓練・避難誘導のビデオによる訓練を実施している。マニュアル連絡網の整備・ハザードマップ・避難場所の確認をしている。懐中電灯・水・ヘルメット・軍手等の非常物品を用意し法人にも非常物品の用意がある。近隣在住職員に災害時対応の確認をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉かけや対応に関してはミーティング等を通じて徹底して配慮するように話し合っている。	接遇研修を実施し着替えやトイレ時のプライバシーや羞恥心に配慮して対応している。入室時にはノックをして言葉をかけ了解を得て入室としている。言葉づかいに気を付け不適切な言葉が見られたときは管理者が注意しており、会議で話し合いの場を設け人格を尊重した対応をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者によっては自己での意思決定が困難な場合が多々ある。そのため日々の生活や活動の中で本人の表情や行動に注意し、要望や嗜好を把握できるよう模索し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様がご自分の意見を言いやすい環境作りを行い、グループホーム全体の大まかな流れはあるが、個人個人の生活リズムを崩す事のないよう留意している。体調の変化に合った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は基本的に家族に依頼し、家族同伴にて行きつけの理美容を利用してもらい、家族同伴でも外出の困難な利用者に関しては訪問理容を利用し、本人の希望に沿った髪型にもらえるよう図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	計画を立て、入居者様も一緒に食事作りに参加できるように努めています。食事準備、片付けは出来るところは職員と利用者一緒に行っている。味付けや好き嫌いに関しては日々の会話や食事の中の談笑の中で聞き取りをし、出来るだけ好みに添えるよう努めている。	法人全体の配食業者を利用して昼食・夕食利用している。刻みや大きさなどの食事形態は事業所で職員が行っており、随時行事食も取り入れている。利用者はテーブル拭きなどをしている。食事の中で料理の希望や意見を聞き、直接伝えたり法人より伝えている。家族と外食に出かけている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を毎日確認しており、福祉食材を利用することで栄養バランスにも配慮している。また、体重の増減を記録することでカロリーコントロールも行えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、定期的な歯科受診により利用者の口腔状態を確認してもらっている。また、歯科にてスタッフへのブラッシング指導等も行ってもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は排泄リズムを把握し、定期的にトイレ誘導を行うことで不快なく排泄できるよう支援している。夜間は十分な睡眠時間の確保を考慮し、個々の尿量に応じてトイレ誘導とオムツ交換に分けて支援している。	1名のオムツ利用の人以外はほとんどの人は自立してトイレで排泄をしている。オムツ利用から、座位の確保・立位・トイレ誘導をして排泄の自立へと改善した利用者がいる。夜間は定時オムツ交換や安眠を妨げないよう声掛け誘導して利用者にあった排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂取してもらい、利用者個々に応じた食事の提供を心掛けている。リハビリ通院や体操・ストレッチ等の適度な運動を行い、規則正しい生活を送ってもらえるよう支援に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助浴の基本的な時間帯は設けているが、希望者への対応は臨機応変に行えるようにしている。また、単身入浴者に関しては就寝時間帯を除いた時間で希望時間に入浴してもらえるようにしている。	浴室は個室で浴槽は明るい色で目を引く。入浴は週2回午前中に利用者の様子を見て入浴しており利用者の希望の時間など柔軟に対応している。入浴剤や好みの石鹸を使っている人もいる。職員と1対1で日常の会話を楽しみゆっくり寛いでいる。重度の人には2人介助で対応して清潔保持の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や現在の状態を把握し、安心して休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が利用者の病状を理解し、内服薬を把握するようにしている。誤薬防止のために服薬用のBOXを準備し、分かりやすい状態にする事、又、投薬時は2名以上で確認し、本人の前でも名前を読み上げるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の生活歴を考慮し、可能な利用者には掃除や食事準備等の手伝いを行ってもらっており、他にもタオルや洗濯物を畳むなど本人が役割として認識できるものはないか模索している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	主治医と相談して計画を立てて、散歩などにより出来るだけ個々の希望に沿った外出機会を設けるようにしている。遠方への外出は家族に相談し、実現できるよう支援に努める。	コロナ禍で外出は出来ていない。収束後は個別支援の外出や毎日の散歩の時間を作る予定でいる。	コロナ感染予防の為事業所内での生活が続いているが、利用者の五感の刺激になるよう近くの公園に出かけ外気に触れたり、街の雑音や花を目にして季節を感じる機会を作られる工夫を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的には個々に行ってもらっているが、必要に応じて夜間のみ預かるなどの対応を行っている。ホーム側での金銭管理も可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる人は手紙を送ってもらっており、年賀や季節の挨拶などをされている。電話に関しては希望者には施設の電話を使用し連絡を行ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はシンプルに過ごしやすいレイアウトを心掛け、季節を感じていただけるような飾りつけを考えている。	リビングは広く壁の飾りつけは折り紙で作った季節の作品を掲示してすっきりしている。テーブルにアクリルボードを立て感染予防をしている。定期的に換気をして職員が清掃をし、整理整頓して清潔にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルや椅子の位置を用途により変えることで利用者が思い思いに過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険を伴うもの以外は自由に持ち込みしてもらっており、本人になじみの深い物をお持ちいただけるよう推奨している。	居室は入り口にパネルの名札を貼っていて、掃き出し窓で明るい。利用者は椅子やユニットボックスやラジオ等好みの物を持ち込み、ぬいぐるみを飾り、子供達からのメッセージと造花を飾りその人らしく居心地よい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りや介助の必要な利用者でも、希望があれば手すりなどを活かして出来るだけ歩行していただけるよう安全にも留意して行ってもらっている。		